

宮城県・広域TMRセンター アップルのその後を追う²

1月号に引き続きTMRセンター・アップルのユーザーを訪問し、今回訪問したのは、宮城県・大槻牧場、滝口牧場、福島県・水戸牧場。TMRセンターを利用するメリットを聞いた、3牧場は同センターの担当者である(株)富士飼料の津田宗彦氏との連携のもと、高泌乳を実現している。

常に一定の品質のTMRだから安心！

●大槻牧場 大槻 徳夫さん、彰さん

【大槻牧場の概要】

経産牛47頭（うち搾乳牛43頭）、育成牛40頭
搾乳牛1頭当たり乳量35～40kg/日

「TMRを導入した当初から、北海道の栄養コンサルタントの指導を受けていました。TMRはただ混ぜればいいというものではないので、より良いTMRを作るための勉強会を開いたりしていました。以前は地域の仲間でTMRセンターを立ち上げましたが、なかなか手が回らないので専門業者に任せようが効率的にもコスト的にもいいだろうと、富士飼料さんをお願いすることになりました」とアップルの

TMRを使い始めたきっかけを話す大槻さん。「その結果、エサ作りから解放されて、搾りに専念できるようになりました。余裕ができてくれば育成牛にも手間をかけられます。アップルのTMRの一番のメリットは、品質が常に安定していることです。だから、牛も安定して（乳量を）出し続けるのだと思います」と、TMR調製の外部化によるメリットを存分に発揮している。実際に大槻牧場では搾乳牛1頭当たり35～40kg/日をキープ。43kgまでいったこともあるという。

「良いときは平均1万3000kgでしたが、東日本大震災によって、かなりのダメージを受けました。しかしこの半年ほどで徐々に牛の状態は回復して、今は1万2000kgにまで戻すことができました。厳しい状況下でもエサの品質を落とさなかったことが良かったと思います。体細胞数は13万台キープしていますよ」という徳夫さん。アメリカで研修を積んだ後継者の彰さんとのチームワークもバッチリだ。



同じグループ仲間の情報交換で問題を解決！

●滝口牧場 滝口 健一さん

【滝口牧場の概要】

飼養頭数47頭 搾乳牛1頭当たり平均34～35kg/日

「10年前に知り合い（酪農家）がTMRを給与して、非常に良い結果が出ていることを聞いてから導入しました。メリットは、コストが安いことと、それでいてなおかつ乳量が上がっていることです。分離給与のときは30kgの壁をなかなか超えられなかったう

えに、30kg以上に持っていこうとすると牛にかなり無理をかけてしまいました。TMRを給与してからは、無理なく34～35kg搾れるようになりました。

アップルのTMRを導入してから個体乳量が増えたことで、要求エネルギー量が高まったためか、分離給与の頃に比べて繁殖管理のむずかしさを知りました。分離給与の頃と同様のBCSでも、受胎しないケースがあったのです。それは勉強になりましたよ。他



にはとくに問題はありませんでした。なぜならTMRに切り換える際に、例えば卵巣嚢腫や低カルシウム

欠症など、さまざまなトラブルを想定して、それらに対してあらかじめ獣医師に相談していたからです。また私の場合、TMR導入が他のユーザーさんの後だったので、すでにいろいろな情報が集まっていたことも、トラブル回避の大きいポイントでした」と情報をいかに経営に反映しているかがわかる。

フリーバーンでも高泌乳を実現！

●水戸牧場 水戸 睦夫さん、崇宏さん

【水戸牧場の概要】

経産牛52頭（うち搾乳牛47頭）、育成牛8頭
搾乳牛1頭当たり乳量33kg/日、フリーバーン

「うちがTMRに切り替えたのは、フリーバーン飼養に変更したことがきっかけでした。当初はコストの安い粕がメインのTMRを給与していました。最初は乳量も結構出ていて、調子も良かったのですが、徐々に繁殖が悪くなって受胎率が下がってしまいました。ちょうどそのとき富士飼料さんと接する機会があり、思い切ってアップルのTMRに切り替えました。それ以来牛は健康的になってきて獣医師を呼ぶ回数が減りました。TMRの変更が大きく関係してい



ると思います。1頭当たり乳量も、当初の目標30kgを超えて33kgになりました。今はTMRをメインに給与しているほか、ロールサイレージをおやつ程度に給与しています。今までは搾乳牛は導入で、子牛はF1生産という経営でしたが、今後は自家育成も増やしていこうと思います」と睦夫さんは言い、乳量の増加と繁殖成績の改善を体感している。



デーリィサポーター事業スタート！

デーリィサポーターは、搾乳補助、給飼、掃除などお客様のお手伝いをさせていただきます。

TMRセンター・アップルを運営する(株)富士飼料では、TMRの供給はもちろん、飼料供給以外の部分でも酪農家をサポートしていきたいという。その一歩として、今春から酪農家向けサポーター事業をスタートさせる。同社のユーザーを対象に、作業スタッフを派遣する事業だ。酪農ヘルパー同様、搾乳を中心とした作業を代行する。将来的には作業全般を代行することにより、高齢化した酪農場でも営農を続けられるようにサポートしたいという。「こうしたサポーター事業を提供することで、離農に歯止めがかかり、雇用も確保でき、地域の酪農を活性化することができるのではないかと富士飼料の津田氏は意気込みを語る。



ユーザーの斉藤牧場にて。密な打ち合わせや情報交換を図りながら生産者をフォロー



厳選された原料とカーフマンナによって、毎日新鮮なTMR飼料が製造されています

今春採用のデーリィサポーター 百香保里（もも かほり）さん（宮城農業大学校 今春卒業予定）



お知らせ

宮城県「涌谷広域TMRセンター・オレンジ」2012年4月オープン予定
詳しくは、(株)富士飼料まで。
宮城県岩沼市相原3-2-8 TEL 0223-22-2690 HP: <http://www.farmpage.jp/>